



2024

11.10 (日)

12:30 ~

16:00

申込締切 11月8日(金)17時

# 創立55周年記念 特別講演会とQ&A

## 「アレルギー治療の軌跡と進化・希望の未来」

### 参加・申込方法

ご来場 .....

ワイルド貸会議室神田 (先着20名)  
(JR神田駅西口より徒歩5分)

オンライン .....

ZOOM (先着500名)



花粉症

千葉大学大学院医学研究院  
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教室  
准教授

米倉 修二 先生



小児食物アレルギー

国立研究開発法人  
国立成育医療研究センター  
アレルギーセンター  
総合アレルギー科 診療部長

福家 辰樹 先生

### 参加無料

こちらのQRコードまたは当会HPの  
11/10講演会サイトから、会場参加、オ  
ンライン参加ともにお申してください。



申込はこちらから：



喘息

埼玉医科大学呼吸器内科  
教授

中込 一之 先生



アトピー性皮膚炎

日本医科大学皮膚科大学院  
教授

佐伯 秀久 先生

### 主催

アレルギーを越えて。あなたらしい生き方を。  
認定NPO法人

## 日本アレルギー友の会

東京都江東区住吉2-6-5 インテグレート村上3階

<http://allergy.gr.jp>

03-3634-0865

[info@j-allergy.or.jp](mailto:info@j-allergy.or.jp)

### 動画配信

当日ご都合の悪い方、参加後に復習したい方  
などに後日動画URLをお送りします。お名前  
と11/10動画希望と記載してinfo@j-  
allergy.or.jpまでメールでお申してください。

## 『アレルギー性鼻炎の重症化ゼロを目指して』

米倉 修二 (よねくらしゅうじ) 先生

千葉大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教室 准教授

## 【講演概要】

アレルギー性鼻炎、特に花粉症は国民の3割を超える有病率の疾患であり、重症化すると生活の質（QOL）が有意に低下し、労働生産性にも大きな影響を与えます。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では「花粉症重症化ゼロ作戦」を推進しており、適切な治療や予防あるいは啓蒙活動を展開することで、2030年までに花粉症の重症化ゼロを目指しています。本講演では、アレルギー性鼻炎の疫学から治療まで幅広く、分かりやすく概説します。

## 【経歴】

1994年 熊本大学医学部入学	2003年 千葉市立青葉病院 耳鼻咽喉	2010年 千葉大学医学部附属病院 助教(耳鼻咽喉・頭頸部外科)
2000年 熊本大学医学部卒業	2004年 千葉大学医学部附属病院 医員 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	2015年 千葉大学医学部附属病院 診療講師 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)
2001年 千葉大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科入局 研修医	2006年 千葉大学医学部大学院 博士課程 (先進医療科学専攻 耳鼻咽喉科学)入学	2018年 千葉大学医学部附属病院 講師(耳鼻咽喉・頭頸部外科)
2002年 成田赤十字病院 耳鼻咽喉科 研修医	2010年 同上 修了	2020年 千葉大学大学院医学研究院 准教授(耳鼻咽喉科頭頸部腫瘍学)

## 『気管支喘息の最新治療2024』

中込 一之 (なかごめ かずゆき) 先生

埼玉医科大学呼吸器内科 教授

## 【講演概要】

気管支喘息は気道の慢性炎症であり、薬物治療の主体は、吸入ステロイドを中心とする抗炎症療法である。症状に対しては気管支拡張薬が効果的で、吸入ステロイドとの配合剤が使用されている。またダニなどのアレルゲンが関与する例が多く、環境整備やアレルゲン免疫療法が重要である。重症喘息では5剤の生物学的製剤が使用可能である。本講演では、吸入療法及び環境対策の重要性を解説し、生物学的製剤の特徴について説明したい。

## 【経歴】

1996年 東京医科歯科大学医学部医学科卒業	2000年 東京大学附属病院アレルギーリウマチ内科医員	2008年 埼玉医科大学呼吸器内科講師
1996年 東京医科歯科大学附属病院麻酔蘇生科研修医	2001年 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻博士課程入学	2011年 ウィスコンシン大学小児科客員研究員 (Visiting assistant scientist)
1997年 国立相模原病院内科	2005年 同上卒業	2014年 埼玉医科大学呼吸器内科講師
1997年 関東中央病院内科	2005年 東京大学附属病院アレルギーリウマチ内科医員	2017年 埼玉医科大学呼吸器内科准教授
1999年 山梨県立中央病院内科	2007年 埼玉医科大学呼吸器内科非常勤講師併任	2021年 東京大学附属病院アレルギーリウマチ非常勤講師併任
	2008年 東京大学附属病院アレルギーリウマチ内科助教	2023年 埼玉医科大学呼吸器内科教授

## 『小児の食物アレルギー診療 ～治療し予防できる時代へ～』

福家 辰樹 (ふくいえ たつき) 先生

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 総合アレルギー科 診療部長

## 【講演概要】

食物アレルギーは有病率が高く社会的関心の高い健康問題です。発症予防に対する期待も大きく、またそれを伝える医療職側の責務も大きいと言えます。近年は適切な対策を取ることで食物アレルギーの発症リスクを抑えることが可能な時代になりました。治療についても日進月歩で、かつての経口免疫療法は激しい症状誘発リスクなど幾つかの問題を抱えていましたが、現在はより安全で効果的な方法が登場し治療を目指す時代が近づきつつあります。

## 【経歴】

1998年 浜松医科大学医学部医学科卒業	1999年 静岡県内関連施設小児科勤務	2013年 浜松医科大学小児科 講師
1998年 浜松医科大学小児科学教室入局、 同大学附属病院小児科勤務	2006年 国立成育医療研究センター アレルギー科専門修練医	2016年 国立成育医療研究センター 生体防御系内科部アレルギー科 医師 (2018年6月よりアレルギーセンター 総合アレルギー科 へ所属名が変更)
	2008年 浜松医科大学小児科医員、次いで助教 兼 国立成育医療研究センター アレルギー科臨床研究員	2019年 アレルギーセンター 総合アレルギー科 医長
		2022年 同 診療部長

## 『アトピー性皮膚炎の病態と治療』

佐伯 秀久 (さえき ひでひさ) 先生

日本医科大学皮膚科大学院 教授

## 【講演概要】

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン(ADGL)2021では新規治療薬3剤(デュピルマブ、アルゴシチニブ、パリシチニブ)が追加された。ADGL2024(2024年10月発行予定)では新規治療薬5剤(ネモリズマブ、トラロキスマブ、ウパダシチニブ、アプロシチニブ、ジファミラスト)が追加される予定である。本講演では新規治療薬を中心に概説する。

## 【経歴】

1991年 東京大学医学部卒業	1993年 関東労災病院皮膚科医員	2001年 東京大学医学部皮膚科講師
1991年 東京大学医学部附属病院皮膚科研修医	1995年 東京通信病院皮膚科医員	2010年 東京慈恵会医科大学皮膚科講師
	1996年 東京大学医学部皮膚科助手	2011年 東京慈恵会医科大学皮膚科准教授
	1997年 米国国立衛生研究所 (NIH) 皮膚科留学	2014年 日本医科大学皮膚科大学院教授

## 【後援】

厚生労働省 東京都 千葉県  
独立行政法人環境再生保全機構  
公益社団法人日本医師会  
公益財団法人日本アレルギー協会  
一般社団法人日本アレルギー学会  
一般社団法人日本小児アレルギー学会  
公益社団法人日本皮膚科学会  
日本臨床皮膚科医会

## 【第二部】

## Q&amp;A

事前申込時の質問と、当日チャットで皆様のご質問に専門医がお答えします。他の方のご質問を聞くことで、ご自身にも役立つ情報があるかもしれません。ぜひご質問を寄せてください！

## ～司会～

坂本 芳雄 先生 安藤・間診療所 所長

江藤 隆史 先生 東京通信病院皮膚科客員部長・あたご皮膚科副院長

山口 正雄 先生 帝京大学ちば総合医療センター第三内科(呼吸器)教授

※時間の都合上、全てのご質問にお答えできない場合もありますのであらかじめご了承ください